たんちょう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.171
2022.1

JAくしろ丹頂

謹んで新春のお慶びを申し上げます

会長理事　瀧澤義一
代表理事組合長　武藤清隆
代表理事専務　千葉喜好
常務理事　白木良雄
理事　五十嵐政敏
〃　大坂博文
〃　對木範誉
〃　藤澤常行
〃　成田純哉
〃　折笠文則
代表監事　齊藤和弘
員外監事　寺下信夫
常勤監事　石動稔
参事　坂本克則
他職員一同

CONTENTS

- 新年のごあいさつ
  - 代表理事組合長　武藤　清隆 ―― 1
  - 北海道農業協同組合中央会会長　小野寺 俊幸 ―― 2
  - 代表理事専務　千葉　喜好 ―― 3
  - 釧路丹頂農業協同組合酪農振興会 会長　對木　隆司
  - 釧路丹頂農業協同組合青年部 部長　菱沼　恭平
  - 釧路丹頂農業協同組合女性部 部長　成田　洋子 ―― 4
- 組合員組織 ―― 5・6
- 年始日程表 ―― 7

年頭にあたり

釧路丹頂農業協同組合
代表理事組合長　武藤　清隆

組合員並びに役職員の皆様、新年明けましておめでとう御座います。希望に満ちた令和４年の新春を、御家族お揃いで迎えられました事を心よりお慶び申し上げます。

昨年も引き続きコロナ対応に振り回された１年となってしまいました。幾度となく発出される緊急事態宣言により、ほとんどの行事が中止、あるいは規模縮小を余儀なくされ、日常とは程遠い状況のまま、年末を迎えました。ようやく11月より各種宣言の解除により、平時を取り戻しつつありましたが、11月の末に新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の出現により、世界中が新たな緊張状態に入りました。我が国は11月以降急激な感染者減になりましたが、世界の状況からしますと、まだまだ緊張感を持って感染予防に努める必要があるでしょう。組合員の皆さん、引き続きこれまで同様の対応をお願いします。

さて、その影響で牛乳乳製品の需要が大幅に減少し、年末年始・年度末の不需要期の他、令和４年度には、実に12年振りに生産抑制に取組まなければならない状況になってしまいました。こうした環境化での中央要請でありました。道酪畜対として、決して〝生産基盤を棄損させない〟〝所得目標30円／kg以上〟ＪＡグループ北海道が掲げる〝めざす姿〟の継続的・安定的な実現に向けた政策提案を行う事で意見統一がなされ要請活動が展開されました。新年号が皆さんの目に触れる頃には、その成果がどうであったかが確定されていると思いますが、どうか要請活動が実を結び新年が明るい見通しの中で営農計画書が樹立されることを祈念するものです。

次期生乳安定生産対策では、令和４年度目標数量設定に係る考え方として、既存生産分は令和３年度生産目標数量×１００％を基本とし、新規就農者分＋規模拡大分として令和３年度目標数量に対し１％を按分し各ＪＡに配分される事になりました。

第３次中期計画書で定めた目標数量11万トンを達成目前にこの様な事態になり残念でなりません。しかし現実は現実として受止めて、この難局をどの様に乗り越えるか、今こそ知恵の出し所と考えています。農協としましては、あらゆる手段を講じながら、組合員の皆さんの経営と生活を守る為取組みます。これまでは、増産を基調としながら全力で取り組んで来ました。それが叶わなくなった今、この状況は決して喜ばしいことではありませんが、決してネガティブに捕えるばかりではなく〝ピンチをチャンスに〟と言われる様に、この際、経営の総点検をし、ぜい肉を落とし効率の良い生産体制に切り換えるそんな時間としたいものです。この状況がいつまでも続くとは思いません。明けない夜は来ないといいます。コロナ以前の需要に戻った時しっかり対応できる体制はなんとしても維持しなければならないと考えています。ともに頑張りましょう。

さて、昨年の10月に岸田内閣が誕生しました。首相の選挙中のキャッチフレーズは、新自由主義からの脱却でした。強い者勝者だけが生き残れば良いという〝新自由主義〟は農業協同組合では、相入れない考え方で、この事から脱却するという力強い言葉には大いに期待していました。また農業に関しては、家族経営を守り農業の持つ多面的機能を維持強化するとも述べており我々としては期待は大きなものがありました。しかし内閣発足後はこれらの主張が大幅にトーンダウンした感があり残念でなりません。初志貫徹を願うばかりです。

〝ＳＤＧｓ〟持続可能な開発目標が叫ばれています。そこでの理念は「誰一人として取り残さない」まさしく農業協同組合の理念に合致するものです。また昨年11月に開催された３年に一度のＪＡ全道大会で採択されました内容を基本としつつ、今年も役職員一同全力で邁進致します。どうか組合員の皆さん、職員の皆さんの御理解と御協力の程を宜しくお願い致します。

結びに、１日も早くコロナが収束し平穏な日常が戻ります事、組合員、職員の皆様のご健勝と更なる御活躍を御祈念申し上げ年頭の御挨拶とさせて頂きます。

年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長　小野寺俊幸

新年あけましておめでとうございます。

組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の本道農業につきましては、春先は天候に恵まれ順調に推移したものの、7月～8月にかけての長期間の猛暑や少雨による干ばつ、また、9月に発生した雹や大雨により、一部の地域や作物によっては、生育が大変、心配されたものの、おおむね平年作を確保することができました。

しかしながら、一昨年から引き続き、新型コロナウィルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年でありました。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食の需要減少等の影響により、各作物の消費に大きな影響が出ています。

今後は作物ごとの実態を踏まえた、国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が入国にも影響があり、農作業の人材確保にも大きな課題となっておりますので、北海道、全国連とも連携し、ＪＡグループ北海道としてしっかりとその対応を図ってまいります。

昨年は第30回のＪＡ北海道大会を開催し、「北海道５５０万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」という将来ビジョンが決議されました。

コロナ禍やデジタル化への対応、ＳＤＧｓへの貢献、信用・共済事業をはじめとしたＪＡ経営を取り巻く事業環境への対応など、北海道農業、ＪＡグループ北海道を取り巻く環境が急激に変化しており、このような環境に適応していくには、改めて、協同組合運動の原点である「対話」を通じて、実践方策を設定し、実践と改善をくり返すことで、変化の波をＪＡ運営に取り込んでいくことが必要であり、組合員・役職員が一丸となってしっかりと取り組んでいくことが重要となります。

結びになりますが、本年は壬寅年です。十干の「壬」は陽気を下に宿すという意味を持っており、生命の誕生を宿す意味を表します。一方、十二支の「寅」にも壬と同様で、草花が伸びようとする状態を表しています。この謂われにあやかり、本年が豊穣の年となること、新型コロナウィルスの1日も早い終息と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年にあたり

釧路丹頂農業協同組合
代表理事専務　千葉　喜好

新年あけましておめでとうございます。

組合員、職員の皆様には令和4年、大きな希望と期待を込めて新春を迎えられたことと思います。

昨年はコロナの収束をみられる日を待ち望んでいましたが、オリンピックの影響もあって感染の波を繰返し11月ようやくワクチン効果もあって国内の人の動きが戻ってきました。今後の事は予測困難ですが世界的な収束までは3年以上はかかるでしょう。

昨年の気候は大きな台風被害もなく収穫作業も順調に進み結果としては良の出来であったと思います。本来であれば生乳生産に大きく期待のもてる結果でありますが、長引くコロナの影響から牛乳・砂糖・米などが大量の在庫を抱えてしまい農家にとっても大きな負担となってきました。生乳生産は4年度減産とも言える状況であります。

過去においても減産調整などありましたが、今回の問題はコロナが大きく関わり複雑です。

世界的に原油・穀物・肥料と全てが高騰し、農家経済は厳しくなっています。組合員にはこの緊急事態を乗り越えるための努力であったり今一度経営の総点検などをお願いします。

近年、地域温暖化が大きな問題として世界的な対策が求められ脱カーボン、化石燃料の削減、風力、地熱等自然エネルギーの利用、SDGsの取り組み等毎日報道されています。農業にも家畜の管理、化学肥料、穀物の与え方、糞尿の管理等多くの事が指摘されています。『農業は温暖化対策には大きく貢献しています』この考え方は現在理解の得られない口実なのかもしれません。私達農業者も取り組みの見直しをし、立ち止まって考える事も必要でしょう。近年農業は化学技術、機械力などを使って生産拡大を実現し、その事によって農業者、消費者にとって利益となる部分も多く、豊かになった事も事実であります。しかし増産、拡大方向に急ぎ過ぎたことで失った物も多く、今後はバランスの取れた生産活動、安心安全そして環境に優しい農業を目指す時代が来たと受け止めています。農業の基本は循環農業であります。黒澤酉蔵の「健土健民」が基本、農業の原点であります。「健康な土の上に健康な民が宿る」、SDGsでもなく、カーボンニュートラルでもなく「健土健民」が全てを語っています。「近代農業の中で何を言っているのか」と言われる方も居るでしょう。しかし今、多くの問題解決のためにこの言葉をもう一度考える時ではないでしょうか。食糧自給率が問題視されますが、食品ロスも大きな問題です。生産された食料を有効活用することが大切です。酪農現場でも牛の健康そして乳房炎等の発生を抑えることで利益も生まれロスも少なくなります。今年は特に生産拡大は難しい中で利益の確保を目指す訳で、自分の経営の中でロスはないか再確認に努めて頂くことをお願いするところであります。そして自分の生活、経営内容の見直し、一度立ち止まって後ろを振り返って見ることも大切ではないでしょうか。

令和4年、経営の舵取りは難しい1年ではありますが、コロナの収束に向かってもう少し我満の年、家族の御健康と御多幸を祈念申し上げ、新年の御挨拶とします。

新年のご挨拶

釧路丹頂農業協同組合酪農振興会
会長　**對木　隆司**

新年明けましておめでとうございます。酪農振興会の皆様には令和4年をご健勝でお迎えの事とお慶び申し上げます。旧年中は会員の皆様方をはじめ諸関係機関の多大なるご協力を頂き誠にありがとうございました。

昨年は、新型コロナウイルスのワクチン接種は進んだものの、未だ予断を許さない状況であり、牛乳や乳製品の需要の低迷が続きました。

また、個体価格の下落と飼料や畜産資材の高騰もあり、厳しい1年となりました。

そのような状況ではありましたが、昨年は親睦を図るためのボウリング大会や、白糠で立ち上げたばかりの株式会社M&Sの視察を行いました。M&Sでは、飼料は隣接のTMRセンターから供給され、搾乳は6台のロボットで行い、自動換気システムなど最新の機器を導入しています。省力化を実現しつつ今後の規模拡大も目指されており、良い刺激となりました。

本年は乳製品の在庫対策のため生乳の生産調整の可能性が出てきています。振興会では少しでも在庫の解消に貢献できるよう、農協職員や会員の皆様にバターを配布する事を検討しています。

また、各支部でもアイスクリームや牛乳券を贈るなど、乳製品消費拡大のPRに努めています。

牛乳の生産側としては例年以上に難しい状況になりそうですが、いつかコロナ禍が収束する時を見据えて努力していきたいと思っています。

最後に、昨年度中止になった酪農祭を今年は開催する予定です。本年も会員相互の良い関係が更に広がり、強い結びつきになるような事業を進めて参りますのでどうぞよろしくお願いします。今年1年皆様のご健康とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせて頂きます。

新年のご挨拶

釧路丹頂農業協同組合青年部
部長　**菱沼　恭平**

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

旧年におかれましては、組合員の皆様、関係機関の皆様には、特段のご支援、ご協力を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

昨年の青年部活動としましては、新型コロナウイルスで活動が制限される中、女性部と合同で地区の小学校に「たいせつなぎゅうにゅう」という本を寄贈いたしました。一人でも多くの子に、酪農について興味を持ってもらえれば幸いです。

12月には、ボウリング大会を開催し、久しぶりに部員と顔を合わせることが出来、有意義な時間を過ごす事ができました。

また、全道JA青年部大会は、昨年に続きオンライン形式で開催され、マツコ・デラックスさんの基調講演等が配信されました。

依然として酪農情勢は先行きが不透明で、今まで以上に厳しい状況ではありますが、我々青年部は国民の命を守る「食」に携わる者として、その重要性や地域社会を担っていくという強い信念を持ち、活気あふれる青年部活動を行って参りたいと思います。

最後になりますが、本年も組合員そして関係機関の皆様方からのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致しますとともに、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

釧路丹頂農業協同組合女性部
部長　**成田　洋子**

明けましておめでようございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は関係機関の皆様、そして女性部員の皆様に多大なるご配慮、ご協力賜りました事にお礼申し上げます。

長引く新型コロナウイルスも終息なく女性部活動、日常生活にも影響を及ぼしその都度協議し、模索する一年でありました。

昨今の不況で直接影響を受けているのは子供達で、この飽食時代において食品ロスなどの報道が目立つ中、貧困のため日々の食事さえ満足に得ることが出来ない子供達が多くいる事を認識しなければならず、全道女性協では子供食堂に食材提供を開始しております。

皆さんと情報を共有し私達の役割や助け合いについて考慮して参りたいと思います。

又、昨年は青年部と合同で食育活動として小学生児童に「たいせつなぎゅうにゅう」という絵本を372部配布し、農家のお仕事について学び、未来に向けての応援団になって頂きたいという思いから事業実施に至りました。

例年行われている交流会も密を極力避けるため、前年同様3ヶ所でしめ縄作りとなりました。今年は、コロナに配慮しながら全体での交流会開催となるよう進めていきたいと思います。

各支部活動においては、地産地消を目指し地域に根ざした食品加工、一村一品等多彩な活動を執り行われております。

酪農情勢は、これまで以上に牛乳の需給バランスが窮地に陥り逼迫する事が予想されます。早急に策を講じなければならず、消費拡大を視野に入れ、部員の皆様の協力のもと取り組みたいと思います。

最後になりますが、困難な時も希望を持つことを胸に充実した女性部活動が出来るように進めて参りたいと思いますので、関係機関の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げ新年のご挨拶とさせて頂きます。

ＪＡくしろ丹頂組合員組織

あけましておめでとうございます。

釧路丹頂農協女性部 部　長　成　田　洋　子	**釧路丹頂農協青年部** 部　長　菱　沼　恭　平
釧路丹頂農協酪農振興会 会　長　對　木　隆　司	**釧路丹頂和牛改良組合** 組合長　菊　地　和　広
釧路丹頂農協馬事振興会 会　長　小野田　喜　一	**釧路丹頂農協乳牛改良同志会** 会　長　林　　稔　幸
外国人研修生受入協議会 会　長　伊　藤　順　一	**幌呂大型機械利用組合** 組合長　大　硲　晋　二
鶴居営農組織代表者協議会 会　長　合　田　徳　三	**鶴居村乳牛検定組合** 組合長　松　井　俊　治

ＪＡくしろ丹頂組合員組織

本年もよろしくお願い申し上げます。

鶴居村酪農ヘルパー利用組合 組合長　菱沼和也	**白糠町乳牛検定組合** 組合長　影山　純
白糠町酪農ヘルパー利用組合 組合長　北村康浩	**音別町乳牛検定組合** 組合長　佐藤一哉
音別町酪農ヘルパー利用組合 組合長　菅原善伯	**白糠町野菜生産組合** 組合長　細谷照雄
白糠町農民組合 執行委員長　中河敏史	**白糠町農村青少年クラブ** 会長　細谷亮太

たんちょう VOL・171 令和4年1月発行
■編集発行 釧路丹頂農業協同組合管理部管理課
■印刷 白糠印刷㈱

JAくしろ丹頂　年始日程表

部門 / 年月日	各地区の事務所 管理・共済	各地区の事務所 金融	各地区の事務所 営農	販売	家畜改良	生乳	哺育育成センター	幌呂育成牧場
令和4年 1月1日(土)						通常業務		
1月2日(日)					業務始め＊			
1月3日(月)								
1月4日(火)		業務始め						
1月5日(水)				業務始め・初生集荷				
1月6日(木)	業務始め		業務始め					

部門 / 年月日	購買・鶴居 生活店舗	購買・鶴居 給油所	購買・鶴居 資材	購買・幌呂 生活店舗	購買・幌呂 給油所	購買・幌呂 資材	購買・白糠 給油所	購買・白糠 資材	購買・音別 生活店舗	購買・音別 給油所	購買・音別 資材
令和4年 1月1日(土)											
1月2日(日)											
1月3日(月)		業務始め＊			業務始め＊		業務始め＊				
1月4日(火)	業務始め 午後5時まで								業務始め 午後5時まで	業務始め 午後5時まで	
1月5日(水)	午後5時まで	午後5時まで					午後5時まで		午後5時まで	午後5時まで	
1月6日(木)			業務始め	業務始め		業務始め		業務始め			業務始め

＊午前中のみ営業となります。

営業日	休業日

◆人工授精業務、年末年始の対応について

・1月2日の人工授精業務につきましては、午前9時30分までの受付分（厳守）対応となりますので、よろしくお願い致します。

・万一、交通事故が発生した時は、

JA共済事故受付センター

事故等の場合には

ジコは　クミアイ

0120-258-931

JA共済サポートセンター

レッカー移動や故障時の応急対応が必要な場合には

レッカーロードサービスは　クミアイ

0120-063-931

※フリーダイヤルは、携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

電話料金は無料です。　公衆電話につきましては、電話をおかけになる時の10円は必要ですが、かけ終わると戻ります。

編集後記
EDITOR'S NOTE

□新年あけましておめでとうございます。
新型コロナウイルスの影響による乳製品の消費低下を背景とした、処理不能乳の発生が懸念されておりますが、これをうけて農林水産省は乳製品の消費を促すキャンペーンを強化する事を決定し、金子農林水産大臣が自ら消費拡大を呼びかけました。
最近ではテレビ番組でも、牛乳などを使った料理のレシピを紹介するなどこの問題に注目が集まってきているのを感じております。
ＪＡグループも、今まで以上に乳製品の消費拡大に取り組んで参りますので皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。
本年が皆様にとりまして良い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。（山本）

Instagram
ID→jakushirotancho

ＪＡくしろ丹頂ホームページ